

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解 ・日常の事象を数理的に処理する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて表したりする力

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作をしないと、10までの計算が難しい児童がいる。ア ・文章問題の場面を理解して解くことが難しい児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、計算問題の練習時間を設定する。また計算の仕方をブロックや図などで表し、計算のイメージがもてるようにする。 ・たし算・ひき算の場面をブロックやテープ図で可視化し、場面把握をした上で問題に取り組むようにする。 	9月以降	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・数の合成・分解や十進位取り記数法が定着していない児童は繰り下がりのあるひき算や3けたの数のしくみの理解について課題がある。ア ・文章を式に表したり式から場面を読み取ったりすることについて課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年や既習の内容を振り返りながら新しい内容へと進む。日常的にブロックやタイル図等を用い、数の大きさを意識させる。 ・日常的な場面を式に表す経験を積みませ、式のよさを味わわせるとともに、式表現に慣れさせる。 	9月～2月(授業、宿題など) 9月～2月(授業、宿題など)	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・引き算やわり算、単位の換算などの習熟に課題がある。ア ・事象を数理的に読み取り、図に表して考えたり、式に表現したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・位を意識して筆算する機会を継続的にもつ。また、測定の領域では、既習事項の確認を行い定着を図る。 ・図に表して考える機会を増やすと共に、友達に説明する際には、式に表して考え方を交流できるようにする。 	11月 1月	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・億を超えた大きな数を読んだり表したりする活動に課題がある。ア ・四則計算(特にかけ算やわり算の筆算)に課題がある。ア ・事象を数理的に読み取り、式に表現することに課題がある児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線や面積図を活用して視覚化する。 ・見積もりを出してから計算をする習慣を付ける。計算の過程はノートに残しておき、間違いに気付くことができるようにする。 ・読み取った場面を図に表す機会を増やし、正しく立式できるようにする。立式の際は、計算のきまりを積極的に活用するよう指導する。 	9月以降	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの見通しを立てずに計算してしまうことが原因の誤答が多いことが課題である。ア ・結果を出して終わってしまうことが多く、統合的・発展的に考察することが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を数直線で表し、結果の見通しを立ててから解決するようにさせる。 ・多面的・批判的に考えたり、他の考えや既習事項と結び付けたりして、新しい課題を見いだせるように指導する。 	9月以降	

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形で底辺と面積の関係や、ともなって変わる二つの数量の関係などを、正確に捉えることが難しい。 ・複数のグラフを組み合わせて読み取ったり、事象の理由を言葉や数で説明したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の中で、定義と性質を理解し、その結果どのような関係になっているのかを考えたり、話し合わせたりする。 ・複数のグラフを関連付けたり、分かったことや考えたことをペアやグループ、全体で説明したりする場面をさらに増やしていく。 	9月以降 12月以降	
------	---	---	-------------------	--

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の場面では、友達のノートを画面で共有することで多様な表現方法があることに気付かせる。 ・配布した図形教材に、各自が補助線を引いたり、移動や変形などの操作をしたりして、自分の考えを表現し、その共有にタブレット端末やプロジェクターを活用する。 ・自力解決の際に用いた考えの共有に端末を積極的に活用することで各自の発信力を高める。 ・計算練習やドリルなどへの個々の取組みを効率的に支援し、達成感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入時に新しい問題が今までとどう違うのかを考察したり、何が分かれば、何ができるようになればこの問題が解けるかなどを考えたりする時間を取り、児童が自分で本時のめあてを考え、学級で共有するような取組みを行う。 ・問題解決の途中にも、そこまでの学習を振り返り、学習方法の確認や修正を主体的にできるように育成する。 ・本時の終末に、確認問題に取り組むことで、その日の学んだことを児童が自分で確認できるようにする。